

季刊マーメイド

逗子市立図書館報
第6号

2014年11月1日発行

逗子市立図書館

逗子市逗子 4-2-10

046(871)5998

(電話案内サービス)

逗子の伝説

『吾妻鏡』の伝説

左の絵は、江戸時代の絵師・歌川国芳が、『吾妻鏡』の伝説を描いたものです。背景に富士山も見えており、舞台は小坪の海です。



歌川国芳画 「源頼家公鎌倉小壺海遊覧
朝夷（あさひな）義秀雌雄鰐を捕ふ図」
（『歌川国芳展－没後150年－』より）

『吾妻鏡』には、鎌倉幕府第二代將軍・源頼家が小坪に遊覧に来た際、家来の朝比奈義秀（和田義

盛の三男）に対して水練の技を披露するよう命じたところ、義秀は海に潜り、鮫を三匹生け捕りしたと書かれています。義秀は怪力の持ち主で、その戦いぶりは神のようであったと称えられています。

鎌倉幕府に関する事柄を記した『吾妻鏡』には、逗子がたびたび登場します。頼朝は、愛妾・亀前（かめのまえ）を鎌倉から少し離れた小坪の家に住まわせていました。小坪の海は頼朝や頼家にとつての遊覧の地でした。岩殿寺には源氏の三代の將軍たち、頼朝夫人の政子、北条一族もよく参拝したという記録があります。田越川のほとりを逍遙していたという、頼朝の姿の記録もあります。

田越川の伝説

田越川のほとりは、幼い命が奪われた悲劇の地ともなりました。一一九九年に平家の末裔の六代御前が、一二二二年の承久の乱の際には三浦胤義（たねよし）の四人の遺児たちが、いずれも鎌倉幕府の権力抗争の犠牲となり、田越河原で処刑されました。これらをはじめ、田越川沿いに、六代御前のものとされる墓（桜山地区）と遺孤の碑（逗子地区）が建てられています。

古道の伝説

逗子という地名は、一説には道が交わるという意味の「辻」が語源であると言われているように、



三浦半島の主要な道が行き交う場所でした。古墳時代の終わり頃には、都との往来のための「古東海道」と呼ばれる道があり、逗子

を通っています。鎌倉から小坪坂を越え、小坪から披露山に登り、七曲りを下り新宿へ出る道筋であると考えられています。



申塔庚につ建海道古東
(新宿4丁目)

この道を通った最古の伝説の人物といえば、ヤマトタケルノミコトです。『古事記』や『日本書紀』の東征伝説によると、ミコトの一行は相模を出て、三浦半島東岸の走水（現在は横須賀市）に向

かう途中、逗子を通り抜けて行つたと思われまふ。

~~~~~

平安末期になると、衣笠城を根拠とした三浦氏が三浦半島を支配するようになりました。小坪坂や、披露山から新宿へと下る七曲りのような険しい急坂や崖を、三浦武士たちが駆け回つたと思われまふ。ここで培われた馬術をもつて三浦義連（よしつら）らは、源義経の家来として源平合戦の一の谷合戦に参戦しました。急坂を下つた奇襲作戦の「鴨（ひよどり）越えの坂落とし」も、崖道になれた三浦武士には、それほど難しいことではなかつたのかもしれない。



## 古刹にまつわる伝説

岩殿寺、神武寺、延命寺は、奈良時代創建の古刹(古い寺)です。寺の縁起によると、いずれも日本各地を廻り社会事業を行った高僧・行基が建立にかかわっています。



行基  
(668-749)



岩殿寺観音堂

久木の岩殿寺は市内最古の寺で、七二二年に行基が十一面観音を作り、観音堂を建てたのが始めとされています。沼間の神武寺は、

七二四年、東の空に金色の塔がみえたという聖武天皇の夢に基づき、行基がこの地を選んで開山したのがいわれです。逗子の延命寺は、行基が逗子で雲の中に見た延命地藏のお姿を見て像を彫り、それをまつたのが始まりであると伝えられています。

~~~~~

久木の法性寺(ほつしょうじ・一三二一建立)は、日蓮宗の宗祖である鎌倉時代の日蓮のゆかりの寺と伝えられています。現在、寺が建っている場所は、鎌倉で襲撃を受けた日蓮が、猿に導かれて奇跡的に逃れ得た地といわれています。日蓮は加護の感謝のしるしとして、その地に寺を建立することを思い立ちました。建立は弟

子に託され、日蓮の死から約四十年後に実現されたということです。



日蓮
(1222-1282)



日蓮が隠れたとされる法性寺の岩屋

大蛇・河童・狐の伝説

大蛇伝説は、沼間と池子の二つが伝わっています。沼間の法勝寺に伝わる古い縁起によると、逗子に行基が滞在していた頃、沼間の地に七つの頭をもつ大蛇が出現して人々を困らせていました。行

基は十一面観音像を彫り、祈りによつて、大蛇を退けたということ。この後大蛇は逆に人々の守り神となり、頭ごとに七か所の社、「七諏訪社」が建てられました。現在法勝寺にある観音像が、この時の行基作のものであるという伝説もあります。

池子の大蛇伝説では、古池にすみついた七つの頭の大蛇が、六人の勇士たちによつて退治されたといわれています。六人は村の救い神とされて「六社大明神」としてまつられ、現在も残っています。



河童伝説は山の根にあります。いたずら好きの河童がおり、お仕置きとして大きな松の木に吊る

されたものだと言えられています。



狐の姿はかつて逗子でよく見られたそうです。現在の新宿の七曲りに頻繁に現れて、通る人々にいたずらをしたと伝えられています。特に久木の孫三郎と小坪のお夏の夫婦の狐が有名で、伝説になっています。明治初期生まれの古老の話として、子どもの頃は狐をよく見かけたこと、披露山の七曲りあたりをゆらゆらと提灯が動いていく様子を実際に見たこと、それが狐の嫁入りではないかと思つたことが、記録に残っています。

以上、逗子の各地に残る伝説を集めてみました。紹介しきれなかったものもまだあります。次の資料もどうぞご覧ください。

— 主な参考資料 —

- 『逗子の伝説』 29. Z ス
- 逗子教育研究会国語部編
- 『逗子道の辺史話』第1集〜第18集 21. Z ス 1-18 逗子道の辺史話の会編
- 『逗子町誌 改訂』 P 213.7 カ
- 改訂逗子町誌刊行会編纂
- 『逗子市史 別編1 民俗編』 P 213.7 ス 3-1-1
- 『逗子子ども風土記』 P 291.3 ス
- 逗子教育研究会調査部編
- 『逗子懐古—伝説と歴史の狭間で—』 P 213.7 ウ 内田武雄著
- 『逗子のむかしばなし—伝えたい七つの物語—』 P E ス